

2024年度グローバル・サービスラーニング A 実施報告(ホームページ掲載)

科目名	グローバル・サービスラーニング A 教員名 小関 隆志
実習先	インドネシア共和国 バリ島
実習期間	2024年8月26日(月)～9月9日(月)
テーマ	バリ島での社会課題に挑む

実習の目的: サービスラーニングは、地域社会のニーズを汲み取り、それに対応した支援を通し、社会に対する責任感などを養うことを目的とする教育法です。

2024年度のグローバル・サービスラーニング A はインドネシア共和国のバリ島でボランティア活動を行い、バリ島における様々な社会課題を学ぶことを目的としました。具体的には、孤児院の子どもたちの生活の状況を調べること、日本が外国人留学生・労働者を受け入れている実態を考えること、また社会課題に対して今後必要となる対策について参加者どうし、あるいは現地の学生と議論することを目指しました。

実習報告: 前半部分では、学生全員(11名)が共通のプログラムに参加し、高校、孤児院、日本語学校を訪問して活動しました。また後半部分では、学生が3班に分かれ、それぞれのテーマで調査を行いました。後半部分の調査は、Bali Japanese の生徒がバディとして本学学生に同行してくれました。そのほか、自由時間にバリ島の文化体験や観光も楽しみました。

《実習前半》

- (1) **SMK Gyanar (高校)** : SMK 高校はウブド地方に位置し、Bali Japanese と提携して日本語クラスを設けている高校です。同校の日本語クラスに、本学の学生は授業補助として参加しました。授業は日本語の発音、会話形式での音読、様々なシチュエーションに合わせた会話、日本語能力試験の対策などが行われており、学生は高校生に読み方や漢字などを教えました。また、本学の学生のプレゼンテーションの機会を設けていただき、学生は日本の文化や特徴、言葉について発表やクイズなどを行いました。折り紙やけん玉など日本の伝統的な遊びも実演して紹介しました。



- (2) **Tat Twan Asi (孤児院)** : 日本の食文化を紹介しようと、本学の学生は鶏の唐揚げと日本風カレーを調理して、子どもたちに振舞いました。近隣のスーパーで食材を調達し、孤児院のキッチンをお借りして、子どもたちと本学の学生と一緒に仲良く調理を進めました。手の空いている学生は、子どもたちとおしゃべりをしたり、縄跳びで遊んだりして、交流を楽しみました。孤児院では、学生の訪問をとても温かく迎え入れてくださいました。



実習報告(続き):

- (3) Bali Japan International College (Bali Japanic) : デンパサール市内にある日本語学校で、学校の生徒の多くは卒業後に日本に渡って、介護の仕事などに就きます。本学の学生は日本語のクラスで授業補助にあたったほか、SMK 高校と同様に日本文化の紹介やプレゼンテーションを行いました。同校の開校 6 周年記念イベントに参加させていただいて、学生は「パプリカ」のダンスを披露し、同校の生徒と交流を深めました。



《実習後半》

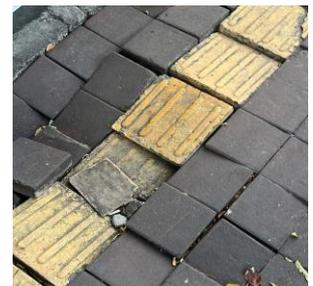
- (4) **浜辺の環境問題** : 観光地として世界各国から旅行客が訪れるバリ島のビーチは、実際にどのように整備されているのかを調べました。いくつかのビーチに出かけて観察したところ、海外から多くの旅行客が訪れる観光地のビーチは、予想に反して比較的きれいで、ごみはあまり多くありませんでしたが、他方で地元民用のビーチは海から流れ着いたごみやプラスチックごみが多く、対照をなしていることがわかりました。



- (5) **ごみ問題・貧富の差** : バリ島内のごみ山の実態はどのようなものなのか、また、そこに暮らす人々の生活環境はどうかを調べました。ごみ山を訪問したところ、ごみの収集で生計を立てている人がいて、そうした人々の集住するコミュニティができていました。ごみ収集で得られる収入は極めて少ないため生活は苦しく、コミュニティの生活環境は非衛生的で劣悪なものでした。こうした人々のための NGO は、子どもの教育や助成のスキル育成、メディカルチェックを行っているそうです。



- (6) **ストリートチルドレン／交通問題** : 事前学習の段階では、バリ島にストリートチルドレンがいるとの情報を目にしておりましたが、実際に現地の人に話を聞いてみると、いまはもうストリートチルドレンはいないと聞きました。そのため、調査テーマを交通インフラに変更。バリ島には、路線バスやタクシー以外に電車等の公共交通機関はなく、住民の交通手段は自家用のバイクか自動車（特にバイク）に依存しています。道路も比較的狭いのでいつも渋滞がひどく、またデコボコで整備の行き届かない歩道も目立ちました。



《文化体験》

休日の自由時間には、バリ島内で著名な観光地であるウブド地方のライステラス（棚田）を散策し、また北部のキンタマーニ高原を訪れて雄大な景色を堪能しました。バリ島の伝統舞踊として名高いケチャックダンスも鑑賞しました。



ウブドのライステラス



キンタマーニ高原

ケチャックダンス



成果：

ボランティア活動を通して、バリ島における様々な社会課題を学ぶという目的に関しては、学生は自分たち自身で社会課題のテーマを設定し、実習の前に予備知識を集めるとともに、実習中は各々のテーマに沿って主体的に現地で活動・調査しながら学ぶことができました。

堅苦しく形式ばった調査研究というよりは、孤児院の子どもたちと等身大の目線で楽しくおしゃべりをしながら、あるいはバディと一緒に浜辺でごみ拾いをしながら、あるいは街歩きをしながら、バリ島の住民の暮らしぶりを肌で感じ、子どもたちの願いを知り、そして身近な環境問題や交通問題を認識していったようです。

実習の報告会では、参加した学生の中から「自分は現地の人を支援したいと思っていたが、わずか2週間程度の滞在で、自分にできる支援は大したことがないとの無力感をおぼえた」という感想が聞かれました。誤解を恐れずに言えば、それでよいのです。学生がいきなり即戦力として課題を解決するなどということは現実離れしています。しかし学生はその後も問題意識を温め続け、いずれ社会人として国際開発に力を発揮してくれるかもしれませんし、そうでなかったとしても、現地に足を運んで学ぶことの重要性、人と交わって得られることの意義を、今回の実習を通して身につけてくれれば、他のテーマにも応用可能ですし、私としてはそれで十分な成果だと思っています。

専任教授 小関隆志

明治大学 経営学部 グローバル・サービスラーニング活動紹介ページ

<https://www.meiji.ac.jp/keiei/features/gsl.html>